
モンスターハンター・シスターズ

五円玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター・シスターズ

【Nコード】

N7664Z

【作者名】

五円玉

【あらすじ】

ユクモ村在住の若きハンター、コウ。彼は村唯一のハンターとして日夜狩猟に勤しんでいた。……そんなある日、ユクモ村に観光に来た3姉妹の旅人ハンターと出会う。ちょっとした事故から、3姉妹とコウは共に狩猟へ行く事となり…… モンハン舞台にバトルあり、ドラマあり、はたまたラブコメありの短期集中連載なのです！

第1話：VS青熊獣1（前書き）

恐ろしくも、約2年ぶりにモンハンの小説を書く事になりました。

作者の五円玉です。

前回のモンハン小説は奇跡的な程の駄文だったので、新たに心機一転、短期集中連載という形でまたモンハン小説描いてみました。

ちなみに第1話ではヒロインの3姉妹はまだ出てきません。

……では、とりあえず、第1話です。

第1話：VS青熊獣1

俺は、大地を駆けていた。

透き通る川の水是緩やかに流れ、四方八方に生い茂る樹々は赤、黄色を中心に明るく染まり、綺麗なグラデーションの葉のカーテンを作りだす。

舞散る落ち葉は風に乗る、地面や川にゆっくりと積もっていく。

所々にコケの生えた岩は川の水面から顔を出し、水の流れを不規則に変動させていた。

樹々の向こうに広がるは、断崖絶壁の崖と山。

ここは、山と山の間広がる「溪流」と呼ばれている場所。

風は優しい。

空は蒼く、雲がポツリ、ポツリと点在していた。

まるで秋を感じさせられるような、赤色に色づくこの溪流。

今、この溪流で俺は戦っていた。

……何と？

……熊と。

「あ、ヤベっ、肉持ってくんの忘れた！」

俺は川近くの岩に腰掛け、その腰にぶら下げている「アイテムポーチ」を覗き、落胆した。

……肉がない。

この漢字含めた4文字を見る限り、なんか鍋パーティーとかで肉を買い忘れたちよっとドジな少年的なイメージを彷彿させるかもしれない。

……俺は何を言っているんだ？

しかし、ここは鍋パーティー会場ではない。

野生の凶悪な「モンスター」が数多く生息し、そしてそのモンスターを狩猟する「ハンター」達の狩り場、渓流なのだ。

肉がない……つまり食料がない。

すなわち……腹減り、スタミナの回復手段がない。

凶悪なモンスター達に対して、スタミナがない状態で対峙する事……すなわち危険！

その時、

「グオオオオオオンッ！！」

背後から木霊する、野生の叫び声。

俺は、冷や汗滴る背中に気配を感じ、恐る恐る背後へと振り返る。

そこには……

「グオオオオッ」

「あっ……」

青い毛皮に、鈍い瑠璃に輝く甲殻。

腕にはトゲのついた腕甲。

目はつり上がり、巨大な口には無数の鋭い牙。

……簡単に言うと、青色の凶悪そうな熊。

こいつの名前は「アオアシラ」。

ハチミツ大好き、凶悪な好戦的獣。

……ハンターである俺の、今日のターゲット。

なんだけど。

「……………」

……ぐう。

……お腹空いた。

今俺、スタミナが……

「グオオオオオオッ!!」

ただただ空腹に呆けている俺を見下ろし、アオアシラは咆哮をあげ

……

ブオオンッ!

その強靭かつ堅そうな腕甲付きの腕を振り回してきた。

その際、アオアシラは4足から2足歩行の体勢をとり、その場で一気に立ち上がった。

その大きさ、俺の1・5倍はあるのでは？

「うおおおッ!」

俺は咄嗟にその場から跳び、アオアシラの腕をかわす。

「あ、危なっ！」

そう言いつつも視線はアオアシラに向ける。

ちよつとでも油断したらいけない！

一方のアオアシラは腕を振り回したその勢いで少し前進。

そして攻撃後の僅かな硬直時間。

俺は一気に背中から二対の短剣……「双剣」を抜き放った。

双剣　それはハンターがモンスターを狩る時の武器の1つ。

短剣を両手に持ち、その手数で一気にモンスターを斬りつけ倒す、攻撃特化型武器だ。

それゆえ防御の技が何一つなく、モンスターの攻撃を防ぐ事は出来ない。

モンスターの攻撃は回避するしかないのだ。

「……いくぜっ！」

俺は双剣　この渓流で取れる特産の木や、火山で採掘することの出来る鉱石などをふんだんに使ったシンプルな刀……「真ユクモノ双剣」を構え、一気に斬りに掛かった。

「おおおおおおおッ！」

全身に力を込め、右左と交互に斬撃を放つ。

「グオオオオオオッ！」

アオアシラは斬撃の初撃に反応。

咄嗟に身を引き、勢いをつけて一気に爪を立て掴みにかかる。

が……………

「……………甘いねっ」

俺はそれを身を引く予備動作で察知し、その場から右へ回転回避。

瞬間、アオアシラの腕は1秒前まで俺のいた虚空をかすった。

そしてその一瞬の硬直時間にも、俺は次々に斬撃を叩き込む。

左右、右左からの両手斜め上斬撃、右左、そして回転斬撃。

合計8ヒット。

それはアオアシラの左脇腹に入り、着実にダメージを与える。

「グオオンッ！」

あまりの斬撃にアオアシラは一瞬怯んだ。

俺はその隙を見逃さない。

「一気にいくぜっ、アオアシラッ！」

双剣両方の切っ先をアオアシラに向け、一気に斬りかかる。

そして斬り上げ、左右へと斬撃、そして回転斬撃。

流れるような高速連続攻撃。

これこそ双剣の醍醐味。

「ガオオオオン！」

斬撃の痛みには耐えられなくなったアオアシラは無茶苦茶に腕を振るう。

しかし……

「遅い！」

俺はすぐさま回転回避でアオアシラの攻撃を避け、背後をとる。

アオアシラはその体の大きさ故、咄嗟に振り返る事が出来ない。

そこへ、俺はさらに追撃を仕掛ける。

「うおおおおおおッ！」

しっかりと双剣の柄を握り、様々な角度からの連続斬撃
双剣
特有の技「乱舞」を放った。

双剣の刃はアオアシラの堅い甲殻を貫き、その血しぶきが辺りに散った。

「グオオオオオンッ！」

その時、アオアシラの目が鋭さを増した。

その身体からは殺気が満ち溢れ、先程とは違ってかわったの変貌。

怒り状態。

モンスターだって生き物だ。

嫌な事やうざったい事をされれば怒る。

怒り状態時のほとんどモンスターは、攻撃力や俊敏性が増すといった傾向がある。

怒り時のバカ力、がむしゃら、とにかくそんな感じ。

怒り状態になったモンスターはかなり手強い。

しかし。

「面白い、かかって来いよ熊さんっ！」

俺は双剣を抜刀したままアオアシラに一気に駆けよる。

相手が怒り状態で能力が上がるなら、こっちにも秘策はある。

俺は怒りに身を任せ突進してくるアオアシラに、思いっきり突っ込んでいった。

あれから数時間後。

「ああ……お腹減ったあ……」

俺は溪流から俺の居住している村「ユクモ村」への帰路についていた。

ガーグアという丸い鳥の引く馬車……ならぬ鳥車に揺られ、俺は村へと急ぐ。

ちなみにガーグアは羽はあるが飛べない鳥。

その分脚力は凄く、この通り人を乗せた荷車を楽々引っ張れる程。

「……しっかし」

俺は荷車の後ろに積まれた、アオアシラの素材に目をやる。

どれもこれもが鋭く、堅い。

この素材を使って強い武器や、モンスターの攻撃からハンターの身

体を守る「防具」を作ったりするのだ。

そして俺が身に付けている防具　「ボロスシリーズ」と言う、茶色いゴツゴツした防具は、砂漠や砂原などに生息しているモンスターから取れる素材で作った防具だ。

ボロスシリーズを一通り揃える、と言う事は初心者から中級者になつたばかりのレベルを示す。

ボロスシリーズの大元となっている素材は、「土砂竜」と呼ばれているモンスターから取れるのだが、その土砂竜の強さは先程仕留めたアオアシラの比ではない。

アオアシラは大型モンスターの中でもかなり弱い部類に属し、そのアオアシラから取れる素材で作った防具「アシラシリーズ」なんかは主に初心者が纏う防具だ。

そして土砂竜は中級者レベルのハンターが狩るようなモンスター。

よってその土砂竜から取れる素材で作られたこの防具纏っている俺は、まあ中級者レベルのハンターだって事だ。

分かってくれた？

俺は今回、村の近くの渓流でアオアシラが確認され、なおかつ村に近付いて来ていた事から村人の安全を考慮し、討伐へと向かったのだ。

このアオアシラの素材は……売ってお金にし、生活の足しにでもする予定。

「ふああっ……お腹減ったし、眠い……」

暖かな日差し。
程よい疲れ。

俺はガーグアに繋がれた手綱をしっかりと握り、睡魔と戦いながら
ユクモ村へと向かうのであった。

第1話：VS青熊獣1（後書き）

多分第3話辺りまではモンハン未経験者のために、説明文が多くな
ると思います。

うん、しょうがないよね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7664z/>

モンスターハンター・シスターズ

2011年12月25日01時02分発行